

だから学問は面白い

先日、吉野ヶ里遺跡で見つかった石棺がニュースになっていました。石棺内部から何らかの物等が見つかれば身分や時代が特定できるかもしれないという期待があったようです。さらには『邪馬台国・九州説』を後押しするものとなる」という報道もあり、歴史ファンや佐賀県・奈良県の関係者の間で、特に盛り上がりを見せていました。

ご存じの方も多いと思いますが、調査の結果、副葬品等は見つからなかったとのことでした。ただし、石棺内部の様子や見つかった場所等から、「邪馬台国時代の有力者の墓」との見方が強まったとも言われています。一方、「邪馬台国・近畿説」を推している奈良県桜井市の方々は、「確定的なものが出れば…というのはありますが、やはり邪馬台国は桜井市にあったと思う」とコメントしていました。

これらの報道を見聞きして、改めて「学問は面白い」と思いました。私たちが現在学習していること、教科書に載っていることが、時代とともに変わることがあります。研究が進むにつれ、「説」が変わり、新たな「説」が主流となることがあります。いくつか例を挙げてみますと・・・

- ・「聖徳太子」の実名は「厩戸皇子（うまやどのみこと）」
- ・「仁徳天皇陵」は「大仙古墳」
- ・日本最古の貨幣は「和同開珎」ではなく「富本銭」



などです。これらの例のように、学習した歴史の内容が変わっています。これは歴史（社会科）だけではなく他の分野でも同様です。科学（理科）でも新たな説が続々と現れています。

- ・太陽系の惑星は「冥王星」が抜けて、9つから8つへ
- ・哺乳類は爬虫類から進化した」のではなく、「両生類から哺乳類と爬虫類に分かれた」



また、現在も研究が進んでおり教科書では取り扱われていないものとして「生物5界説」というものもあります。かつて生物は「動物・植物・菌類」の3つに分類されていました。現代では、「動物界・植物界・原核生物（モネラ）界・原生生物界・菌界」の5つに分ける説が主流となっています。

学問（研究）は日々進化します。だから学問（勉強）は面白いと思います。人類がこれまで積み上げてきた文化や科学は定まったものではなく、完結したものでもありません。人類の調査・研究は、限界を知ることなく、まだまだ進化していきます。

かつての私は、受験のための勉強に労力を費やしていました。いかにたくさんの知識を詰め込むか、計算等の力をつけるか、が私にとっての勉強でした。しかし、社会に出て中学校で働くようになると、現場に応じた知識や技能、考えたり判断したりする力が必要であり、そのために勉強することの大切さに気づきました。

入試のための勉強も必要ですが、現代に生まれ生活していく中で、人類の学問に対するあくなき挑戦を知るのも楽しい勉強だと思いました。

わたしはどこ？

